



**東福寺** 確かに一般的には学長が複数の講義科目を持つことはあまりないでしょう。私の場合は講義を担当して、さらにゼミも担当していました。生活福祉・心理コースに心理学を専門とする教員が私しかいなかったという事情もありますが、ただ、日々学生と接することで直に学生の姿を知ることができますし、私自身も学生から元気をもらえるところに魅力を感じておりました。

**市長** 学生に教え、語らいながら研究を深めていく。そういう意味で生涯現役でいらっしゃったわけですね。そういう多忙な東福寺先生が、学外のお仕事も数多く引き受けられました。これは時間を作るという意味でもなかなか大変だったのかと思いますが、どういうお考えからですか。

**東福寺** 私は学長は広告塔でもあると思っています。本務に支障のない限り、委員会の委員を引き受けたり、お声掛けいただいた行事なるべく参加したりするようにしていました。

**市長** その一つに全国公立短期大学協会があり、その会長を4年間お務めいただきました。津市立の三重短期大学学長が全国の公立短期大学協会のトップをお務めになる。我々津市民にとって非常に誇らしいことですが、これまた大変でいらっしゃったでしょう。

**東福寺** 結構大変な4年間でした。というのも、高大接続改革とそれに伴う入試制度改革、大学授業料の無償化、新しい高等教育機関の創設な

ど、国が矢継ぎ早にさまざまな施策を打ち出してきたため、私自身4年間に3回中央教育審議会のヒアリングに応じました。副会長や協会の事務局長も精力的に動いてくれましたので、なんとか会長職を務め上げることができました。

**市長** さて、三重短期大学についてももう少し話を広げさせていただきたいと思います。卒業生の状況についてですが、市内に就職する人のうち市内出身者は半分以下なんです。半分以上は津市外から来た県内の人、あるいは県外の人が津市内で就職しています。簡単に言えば入れ替わりがあるということです。従って、三重短大は多くの津市外からの学生を受け入れ、かつ、この場所にとどまって就職する人も大勢いるといえます。

もう一つ気になるのは、公立の短期大学ですから収支はどうなっているのかという話です。授業料、入試の検定料などの収入は3億4,000万円です。支出の方は人件費や運営経費などで5億9,000万円。2億5,000万円を毎年持ち出しているように見えますが、実は短大を設置し

## 学長とは広告塔。多忙なスケジュールなんのその

ている自治体には地方交付税が入ってきます。それが3億1,900万円。単年度の収支でいうと6,900万円プラスになっている。これが三重短期大学の財政上の計算です。もちろんここには、校舎を建てるお金や、その減価償却費などは含まれていないあくまでフローの数字です。しかし、三重短大が

